

4歳児 実践事例

舟こぎ遊びをしよう (10月)

観点 (生活)

視点 (健康 ~げんきいっぱい~運動)

【遊びの経過】

舟こぎ運動をベースにした、舟こぎ鬼ごっこ、舟こぎリレーなどの遊びを楽しんできた。ルールを教え合ったり、友だちと協力して遊びを進めようとしたりする姿も見られるようになってきた。

【ねらい】

友だちや保育者と力一杯身体を動かして遊ぶことを楽しむ。

【○幼児の様子

★環境の構成

■保育者の援助】

★安全に思いきり身体が動かせるよう、遊戯室のスペースを広く取っておく。

○舟こぎ探検に出かける。

さあ、探検に出発だ。

【意欲】【期待感】

しっかりオールを漕いでいこう。

【動きの工夫】

【思考】



- 保育者も一緒に運動をしながら、海へ舟をこぎ出すイメージが広がるような声掛けを行い、本時の活動への期待が膨らむようにする。
- 子どもたちの体幹が育つよう、腕や足の正しい使い方を丁寧に知らせる。
- 腕や足を力いっぱい使って舟漕ぎ運動を行っている姿を認め、周りの子どもにも知らせることで身体を動かして遊ぼうという意欲を高める。

みんなで声を合わせよう。「オーエス！」

【提案】【協力】

○舟こぎ鬼ごっこをする。

足が疲れた。でも、がんばって逃げ切るぞ。

【チャレンジ】



腕をいっぱい振ると、早く進むなあ。

【発見】

【動きの工夫】

どっちに逃げたらいいかな。

【思考】

- 子どもの遊びの姿を見守りながら、体力や集中力に応じて無理なく参加できるように援助していく。
- 保育者も遊びに加わり個別に誘いかけをしながら、ルールのある遊びが友だちと一緒に楽しめるようにする。
- がんばっている姿や、子どもたちの考えた作戦や動きをその都度言葉にして認め、遊びが深まるようにする。

○アイデアを出し合いながら、繰り返し遊ぶ。

もう一回しよう。

【意欲】

【満足感】



鬼をよく見ながら後ろ向きで逃げると捕まらなかったよ。

【動きの工夫】

- 話したい気持ちを受けとめ、子どもから出たアイデアや意見をうまく引き出し広げていく。
- 満足感を味わうとともに、次回の活動への意欲につながるよう、子どもたちの頑張っていた姿や協力していた姿を認めていく。

【考察】

探検、鬼ごっこ、リレーなど舟こぎ運動にいろいろな遊びの要素を加えることで、毎回興味や意欲をもって楽しむことができた。また継続して取り組むことで、遊びを最後まで楽しめる体力が育ってきた。今後も子どもたちの意見を取り入れながら、遊びを発展させていきたい。